

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達LABO. Proリハ 東古松（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 2日		～ 令和8年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	60	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 2日		～ 令和8年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりのお子様の特性に応じたオーダーメイドの支援プログラムの提供。	フォーマルおよびインフォーマルアセスメントに基づき、支援プログラムを立案している。 多職種間で支援に関する密な情報共有・協議を行っている。	支援内容について、定期的にミーティングを実施する。
2	定期的に相談支援を実施している。	毎回の利用時に、保護者様との相談時間を設けている。	職員研修を通じて、相談支援に関するスキル向上を図っていく。
3	職員間で密なコミュニケーションを図り、円滑な連携体制を構築している。	支援終了後に短時間の振り返りを実施している。 ケースごとの共有時間を定期的に設けている。	心理的安全性を守り、コミュニケーションを図りやすい体制づくりを徹底していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援プログラムが固定化している。	職員のさらなるスキル向上が必要である。 より個別性に適したプログラム立案に関する知識の向上が必要である。	定期的に支援内容に関するミーティングを実施。 支援に必要な教材・備品の更新。
2	物理的なスペースの制約。	建物の構造上、スペースが限られる。 レイアウトの見直しが必要。	レイアウトの工夫と動線の確保。
3	職員間における業務ルールの周知に課題がある。	ルールの失念が生じることがある。	業務ルールの明文化を行っていく。